鎮守の森とは？

多くの神社は森に囲まれています。これは聖域と考えられており、境内を俗世間と隔てるものです。日本古代のアニミズムにおいてしばしばそうであったように、鎮守の森自体が信仰の対象であることもよくあります。町村の近くにある森林は薪の供給源であった場合が多いものの、ほとんどの鎮守の森は(地域の人々によって)その原型を留めています。土佐清水市の鹿島神社についてもそう言えます。鎮守の森の数は、都市化および 1800 年代後半以降の維持不足により、著しく減少しました。近頃では、緑樹の全くない神社を見ることも珍しくありません。新しく設けられた神社の周りに森が新たに整えられる場合もあります。最も有名な例は、東京にある明治神宮を囲む森であり、1920 年代に整えられたものです。